

2023年度人文学部FD活動報告

(キリスト教学科, 人類文化学科, 心理人間学科, 日本文化学科)

2023年度は, 学生と教職員の多様な特徴やバックグラウンドへの理解促進, 配慮や支援を超えた多様性の尊重と活用を目指したFD活動を展開した。主な取り組みとして, 2024年1月31日にSD委員会との共催による講演会「多様性を育むキャンパスを目指してLGBTQ+学生の理解と支援」を開催した。ゲイカップルの平田金重さん, 勝山こうへいさんを招き, 人文学部教員のみならず, 他学部の教員, 職員, 学生が参加した。講演では, LGBTQ+に関する基礎知識, 当事者ならではの体験談, 学生生活における課題, 支援の必要性について語られ, 本学キャンパス内で, 多様性への理解不足や具体的な支援方法に関する不安が依然として存在することが明らかになった。

次に, 各学科における主な取り組みを紹介する。

キリスト教学科では4月に新入生オリエンテーション企画を実施した。学科の教員を紹介し, 学科の特徴や魅力, 勉強内容, 学生生活へのアドバイスなどを教員と学生スタッフが新入生に語り, 交流を持つことで新入生が充実した大学生活を始められるようにすると共に, 学生指導にも役立てた。また2024年1月に「研究プロジェクト発表会」, 「卒業生歓送会」, 「次年度ゼミ説明会」を開催し, 教員と学科学生との間の質疑応答, 交流, 親睦の機会を設け, 学生指導に役立てた。また年度末には学科FD懇談会を開いた。

人類文化学科では, 2023年度のFD活動方針に基づき, 以下のような活動を行った。①「研究プロジェクト」の評価方法として一昨年度に導入した「ループリック」について, それを利用した教員の意見も聴取した上で検討を続け「最終版」を確定させた。②「学科アンケート」を今年度も実施し, 昨年度との比較を行った。「質問内容の妥当性」については「妥当」, 「アンケートの回収方法」もスマホを使うこと(Google Formsを利用した)がやはり「妥当」ということになった。ただ, アンケートの回答総数があまりよくなしくかも昨年度よりも低くなった(2022年度「62」→2023年度「46」)ため, 回答総数を上げるための方策についての議論が必要だということになった。③「セミナー室」利用については, 12月末にアグラへ「4年生のセミナー室内ロッカー利用」について質問が寄せられたこともあり, この件が周知されていない問題点が議論され, 現状の内規では少し分かりづらいので明記することにした。④「学科HP更新」については, 学生課と連携して, HPの内容が古くならないようにアップデートするようにした。必要な内容上の変更は, 合研の職員と連携してアップデートするようにした。

心理人間学科は, ①多様な機会をとらえて学生, 授業の情報を共有すること, ②公認心理師受験資格対応カリキュラムを計画通りに進めること, ③新入生, 卒業生などを対象とした学科教育にかかる調査活動を行うことに加え, ④2019年度に策定した学生の計画的な履修に対する学科の指針に沿った学生指導を行うこと, ⑤学科ディプロマ・ポリシーと学科科目との関連に関する検討を行うこと, ⑥研究プロジェクトの複数教員による指導体制について検討すること, を今年度の方針とした。

2泊3日での対面およびZoomによるハイブリッドで実施したFD企画において, 新入生および卒業生を対象とした学科カリキュラムに関する調査結果について, 公認心理師受験資格対応カリキュラムについて, 研究プロジェクト論文の指導体制について, などの現状と課題について議論し

た。また、学科会議など多様な機会をとらえて授業や授業外での学生の状況を共有することや、今後のカリキュラム改正について検討するなどの、臨機応変な FD 活動を促進した。それらの議論の結果として今年度には、2025 年度カリキュラム改正の計画と決定、学科ディプロマ・ポリシーの改正に向けた検討などを実施することができた。

日本文化学科の FD 企画では、2024 年 4 月より施行される日本語教員の国家資格化にともなう登録日本語教員登録制度、登録日本語教員養成機関、登録日本語教育実践研修機関、についての説明を上田教員より資料に基づいて行った。

今年度、日本語教員養成課程の確認のための申請書類を作成したところだが、今後 5 年の経過措置の期間中にどのような作業が必要なのか、学科としてどのように対応することが求められているのかを、制度の説明をしつつ、質疑応答の形で進めた。

教員養成機関としての認定に必要な条件、指導する教員の条件などを示し、課題を考えた。

前提科目、定員、実習先の確保、試験合格のための指導など、登録日本語教員として活躍するための指導が必要であろうという意見が出された。

併せて、現在、南山大学が受けている日本語教員養成・研修推進拠点整備事業についての説明も行い、国家資格化に絡み、地域の日本語教育機関との互恵的な関係づくりを目指したいことが報告された。担当の教員や事務の方たちの負担を考え、対応を考えるべきであるという発言もあった。学科内だけで対応できることではないという認識を共通に持つことができたうえで、具体的にどんな課題があるのかという問題意識も共有できた。